

前略 朝日新聞掲載されてゐる アセタル

「自定下の平穩死は可能と興味深くおた

目分にも 96才の母の居りませぬ 病氣ひとつに

予もなく 可護保険も使わず 摘した 氣に引

たう 取りよした 94才のとまゝ 古大腿骨骨折から

可護の日か 始りませぬ ここ 因念 予も ホームに

入所させるのはもう当然の様に なりました

高命でもあつし 元氣をいさげ水と 何時 何か

おこつたい事は 覚悟したから 家へ 暮らす可 送 扱

ある 予がサービスと利用したから 主治 一送も 確保

し 月一回の往診 何事もなく 一年経過 可護も

元水程 つらい事ではないと思つた 夫は 95才の

時 今夜は 左大腿骨骨折、ここから入院

退院のふり返し 家へ 帰るに 家へ 帰る

さいの 運送 予にも 予も 96才を 前にも

入院する事になり、その下主治医に家へ
 来た。この入院させたくない事を頼み、おまも今
 夜泊り病院に連れて行く事さいと、言われ
 る。このからあつち、この思くなり、管下運りの
 生活となり。最期は全然、あちや、おまも
 もの手、苦しんで、放された。
 死ぬ、この文をしたためたのは、先生のよう
 に行部して下さる、お医者さんは、おまもとい
 う事、その都度、毎に、今度、この様な治療を
 (おまもから) 同意書と記入させられ、ある程度
 の期間を過ぎると、このおまも、家へ帰れさせられ、
 とうあるの、と思つても、過院させられ、いくら、固
 不、思つても、確と、思つても、現実、おまも、い
 日、申には、身を、給として、在、完、還、療、に、力を
 せん、い、下さる、先生、方、おまも、その、地域、に

住んでゐる國民はうらやましいと 思はれま

た定に力をええ下さる 先生方も生身の縛

り方家族もいらじやると 思はれま

一先器心命 力をええ下さるのは ありかた

乙すか 気軽な 理想にのろ いたけけるおけ

ありかたのろす

夜・昼 二十四時間 同様に 力を 於 療に たつたわ

いゝ先生も 命令の 身体の手は 粗末にして

いゝ様に 見合ひしなす

心根の やさしい 先生も 長生きして

いたたき 患者の 怒りに 耳を 叩て 下さる

おけでいゝろす

先生 身んより 心んばら ないで 下さる

おけこ